【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価計画

達成度(評価)
 A:十分達成できている
 B:おおむね達成できている
 C:やや不十分である
 D:不十分である

学校名	伊万里市立大川小学校
1 前年度 評価結果の概要	・次年度は、「義務教育学校開校を見据えた教育活動の実施」に向け、地域とのつながりや地域に信頼される学校づくりを職員総意のもと進めていく。 ・学校関係者評価より、学校教育目標「元気いっぱい、やさしさいっぱい、知恵いっぱい」の児童の育成について一定の成果が得られたと考える。しかし、「学校が楽しくない」と思う児童20%があったことは課題であるし、学校関係者評価にも配慮に言及した記述があった。今後、佐賀県教育の合言葉「ほめるから、はじめる。はじまる」を念頭に置いて、個に応じた最適な教育活動やだれもが、安心して過ごせる学級経営の充実を目指していく。
2 学校教育目標	「元気いっぱい、やさしさいっぱい、知恵いっぱい」の児童の育成
3 本年度の重点目標	「やさしさいっぱい」 ①自分を大切に、互いを認め合うことができる児童の育成をめざした人権教育の推進。「9年間のつながりを大切にしたい人権・同和教育の研究～自分の思いを伝え合い、互いに認め合う反差別的行動ができる子どもの育成をめざして～」 ②道徳教育、縦割り活動、交流体験学習の充実により「郷土愛」「自己有用感」の育成。佐賀県教育の合言葉「ほめるから、はじめる。はじまる」を念頭に置いて、個性や多様な価値観が尊重される場づくり。 「知恵いっぱい」 ③義務教育9年間を見通したカリキュラムの実施。 「地域と共に」 ④東陵中学校区が一体となったコミュニティースクールの創造。⑤地域の教育力を活用した交流体験学習の充実など、「義務教育学校開校を見据えた教育活動の実施」に向け、地域とのつながりや地域に信頼される学校づくり

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者
(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ・統合に向けた校種間連携をとり、義務教育9年間を見通したカリキュラムによる学力の向上を図る。 ・各学級における個別最適な支援を行う	○MEXGBTやTOFAS(校区統一のデジタルドリル)を用いた評価テストで、年度初めよりも年度終わりの正答率が上がる。 ○自分や友達のことを大切にしている」と回答した児童80%以上。 ○自分からあいさつができる児童85%以上。 ○気持ちのよい言葉遣いのできる児童の割合が80%以上。	・佐賀県版「家庭学習の手引き」や東陵中学校区の「小中を見通した学び方」の活用により家庭との連携を図り、主体的な学びにつなげる。 ・MEXGBTやTOFASを用いた学習により、自己の学びを振り返り、主体的な学びにつなげる。 ・定期的な評価テストにより、個々のつまずきをとらえ、伸びを実感させる。							◎学力向上CO 教務
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○自分や友達のことを大切にしている」と回答した児童80%以上。 ○自分からあいさつができる児童85%以上。 ○気持ちのよい言葉遣いのできる児童の割合が80%以上。	・「伊万里っ子くさき」をもとに生活目標を作成し、月1回、全校集会等で話をする。また、学級で唱和する時間などを設け、浸透させる。 ・あいさつや言葉づかいに関する取り組みをそれぞれ1回は行う。 ・伊万里市教材「いのちの教育資料」を用い、各学年での実践を行う。							◎生活部 道徳
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○このアンケートで「学校が楽しい」と回答した児童が80%以上。	・このアンケート等の毎月実施により、人間関係を把握する。他者を価値ある存在として尊重する場作りに生かす。 ・このアンケート等で、「学校が楽しくない」と答えた児童の把握と個別の教育相談を行ったり、全職員で気になる子についての共通理解を図る時間を確保したりしながら、いじめや問題行動の未然防止を図る。 ・情報モラル教育を推進する。							◎生活部 教育相談
◎志を高める教育	○人権・同和教育の充実及び人権感覚の高揚	○学級や学校での取組や人権・同和教育の授業を通して、人権意識が高まったと回答する児童80%以上。	・人権・同和教育の視点に沿った共通教材や部活史学習等の人権学習を各学年適宜行い、正しい知識や人権感覚を養う。 ・「Rタイム」を月1回実施し、自他を大切にすることを身に付けさせる。 ・ふれあい道徳、人権教室等を行い、児童の様子を家庭に伝える等、啓発活動を仕組む。							◎研究主任 児童支援教員
	◎CS共通ビジョン「志をもち 地域とともに他者と協働して高めあう東陵中学校区」のもと、児童が大川小学校を誇りに思う教育活動	○「地域の学習や人との関わりを通して、大川町や大川小のことが以前より好きになった」と回答する児童80%以上。	・次年度の義務教育学校開校に向け、郷土愛をさらに深めるために全学年1回以上地域の教育力を活用した交流体験活動を行い、「郷土愛」「自己有用感」を育む。							
●健康・体づくり	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童80%以上	・教育活動全体で生徒指導の機能を生かした取り組みを行い、佐賀県教育のテーマ「ほめるから、はじめる。はじまる。」を推進する。 ・各種活動で、活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組む、自己判断、責任を尊重し、自分のことを自分で決められる子どもを育てる。 ・キャリアパスポートや志の教育等を学期や行事ごとに取り組み、高い志と佐賀への誇りを持った骨太な子どもを育てる。 (または、社会的・職業的自立に向け、自らの生き方について考える子どもを育てる。)							◎特活部(牟田) 教務(山口)
	①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童60%以上 ②「健康に良い食事をしている」児童70%以上	①昼休みの外遊びを奨励し、多くの児童と複数の職員が関わりながら過ごす。また、歩いての登下校を推進し、生涯にわたってたくましく生きる子どもを育成する。 ②健康に良い食事についての授業を栄養教諭を招いて行う。また、学級での取り組みを学級通信を通して、保護者へ啓発していく。児童には、自らの健康や体力に関心を持たせる。							
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・職員が毎月の業務状況の的確な把握と定時退勤日設定と推進を図る。 ・行事の意義、業務の本質を考え「例年通りの改善」を図る。							校長、教頭
●特別支援教育の充実	○個に応じた指導・支援の充実 ○特別支援教育への理解や啓発 ○それぞれの個性や多様な価値観が尊重される場づくりの推進	●先生はあなた(個人)に合わせた勉強の仕方教えてくれている」と回答した児童70%以上	・困り感をもつ児童の把握のための情報収集と共通理解を図り、個別最適な学びを推進する。 ・特別支援教育に関する研修を行い、特別支援学級に在籍しない児童への有効な支援を探る。 ・ケース会議の開催と関係者間で情報共有を行い、全職員で全児童を見守る体制を作る。							特別支援CO
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価				主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○◎開かれた学校づくり	○CS共通ビジョン「志をもち 地域とともに他者と協働して高めあう東陵中学校区」に向けた地域との連携(コミュニティースクールの推進) ○統合に向けた学校づくり	○「学校運営協議会は、地域とつなげる役割を果たしている」と肯定的な回答をした委員が80%以上。 ○「学校運営協議会は、統合に向けた学校づくりを進めている」と回答する保護者が80%以上。	・学校運営協議会と連携し、開かれた学校づくりを進める。 ・授業等の公開、HPの充実と活用、地域教育力を積極的に活用し、学校の活性化を図る。 ・児童も教職員も保護者も地域も誇りうる学校づくりを推進する。							

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	
----------------	--